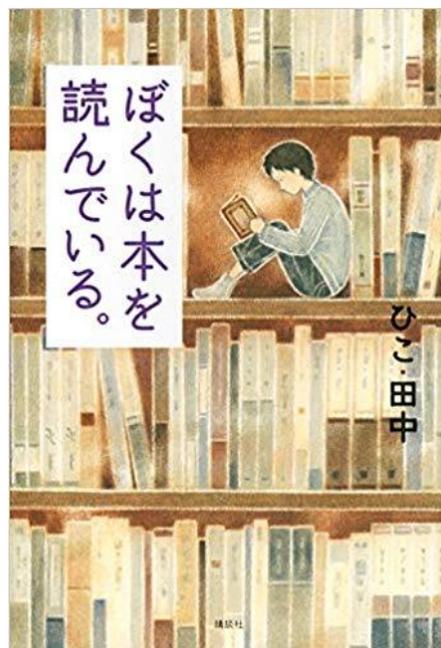


1月のおすすめ本



物語部門

ぼくは
本を読んでいる。

ひこ 田中／著
(講談社)
91・ヒ

家の本棚のいちばん上に、紙のカバーに包まれた古い本を見つけた！隠してあるわけじゃないかもしれないけれど、父か母のどちらかが読んでいた本だ。ドキドキしながら開いてみると、少女物語だった。主人公にツッコミを入れながらも、ぼくは夢中で本を読み進める。やがて、この本の話がきっかけとなって、友達や両親とのきずなが深まっていく。



ノン
フィクション
部門

ことばハンター

飯間 浩明／著
(ポプラ社)
81・イ

国語辞典ってどうやって作られていると思う？この本は、国語辞典の編集者になった飯間浩明さんの話だ。飯間さんは町の中を歩きながら、新しい言葉を見つけると写真をとって、メモをする。アニメの中から、辞書にのせる新しい言葉を見つけることもある。どの言葉も理由があって生まれてくる。「ことばハンター」の仕事のをぞいてみよう！

物語部門



おばあちゃん、 わたしを 忘れてもいいよ

緒川 さよ〳作
(朝日学生新聞社) 91・オ

最近おばあちゃんの様子がおかしい。私の名前を忘れて何回も聞く。「辰子」っていう名前は、おばあちゃんが付けた名前なのに…。ある時ふと、よく二人で言っていた歌舞伎のセリフが出てきて、その言葉をきっかけに昔のおばあちゃんに戻ってきた！私の名前も出てくるし、言葉や動きのテンポも早い！おばあちゃんがずっとこのままだったらいいのに…。

物語部門



モノ・ジョーンズと からくり本屋

シルヴィア ビショップ〳作
(フレーベル館)
93・ビ

イギリスで一番の本屋〈モンゴメリー本の王国〉のオーナーになれるだって！？信じられないような幸運が、小さな本屋〈白鹿亭〉を営むネティ、マイケル、モノのところにやってきた。〈モンゴメリー本の王国〉を訪れた3人は、観覧車のように本の部屋が回るからくりビックリ！しかし、本屋にあやしい男がやってきて、3人はとじこめられてしまう。



人見絹枝

日本人初の
女性オリンピック選手

大野 益弘 / 文
(小峰書店) 78・オ

今から90年前、日本からたった一人、女性でオリンピックに出場した選手がいた——人見絹枝さんだ。運動が得意だった人見さんが出場したのは100m走。でも、まさかの準決勝で4位、決勝に進出できなかった。あのつらい練習はなんだったのだろう…でも、このまま帰るわけにはいかない！800m走への出場を決心する。その結果は…。

物語部門



チギータ!

蒔田 浩平／作
(ポプラ社)
91・マ

レクレーションに何をやる？5年生の千木田のクラスではいつも多数決で人気者の男子たちが推すサッカーとバスケットに決まってしまう。千木田はレクで卓球をやってみたいのに、少数派の意見は取り上げてもらえない。小さな声を大事にしてほしい！いろんな種目をやってみたい少数派メンバーが考えるレク決め作戦でクラスの様子も変わっていく。

ノン
フィクション
部門

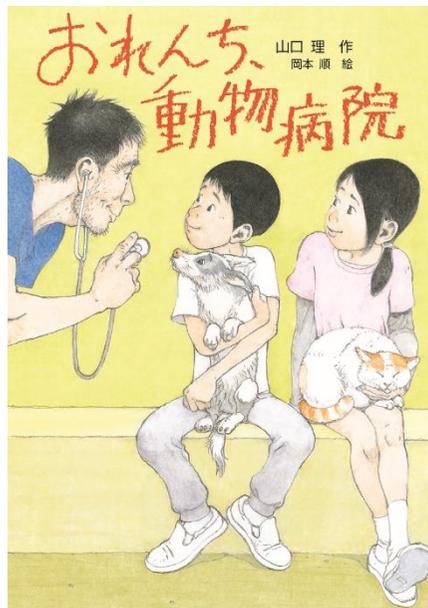


風船で 宇宙を見たい!

岩谷 圭介／作
(くもん出版)
53・イ / 74・イ

自分で宇宙の写真を撮ってみたい。どうやったら宇宙を撮影できるのか考え試行錯誤する経験を、その時の思考過程や気持ちを中心に紹介する。多くの失敗から成功のヒントを探し、「自分が出来ること」を見つけ、「やってみること」でどんどん夢に近づけていく。一人でもあきらめずに成功につなげていく姿を知ることによって、挑戦する勇気がわいてくる！

物語部門



おれんち、 動物病院

山口 理／作
岡本 順／絵
(文研出版)
91・ヤ

おれんちが動物病院になるだって?! 獣医の父さんだけじゃなく、おれまで動物くさくなるし、鳴き声がうるさくて勉強できない。(っていうのは言い訳だけど...) 動物がきらいで反対していた勇希だが、間近で父さんの仕事を見るようになり、全力で治りようをしていることを知る。犬を逃がしてしまう失敗もして、動物の命をあずかる大変さを実感する。

ノン
フィクション
部門



竜之介先生、走る!

片野 ゆか／著
(ポプラ社)
64・カ

2016年4月、熊本で大きな地震が起こる。避難所に多くの人が集まったが、ペットを飼っている人達は、行き場に困っていた。避難所には動物をいやがる人もいたからだ。獣医の竜之介先生は、自らの動物病院を「ペット同伴避難所」として解放する。ペットを連れ来た人達が安心して集まってきた。1500人と2000匹のペットを救った獣医の記録。



あみちゃんの 魔法のことば

ふじもと みさと／作
(文研出版)
28・サ

あみちゃんは、手足がほとんどない障がいをかかえて生まれてきた。でも、3本指の足で、字を書いたりご飯を食べたりできる。学校に行きたくない時もあったけれど、いつも守ってきてくれたお姉ちゃんが、あみちゃんのためにたくさんがまんしていたことを知り、心を入れ替える。つらいこともうれしいことも経験したあみちゃんの言葉がつまっている。



ぼくが
いちばん
ききたいことは
アヴィ／著
青山 南／訳
(ほるぷ出版)
93・ア

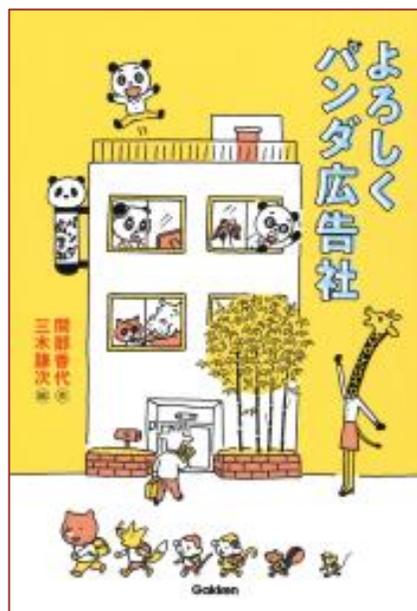
男の子が自分の「家族」について語る短い七つの物語集。離婚したパパを訪ねる「家に帰る」、パパからいつも強くあることを期待される「ぼろぼろ」、世話焼き過ぎのおじいちゃんに悩む「アマルフィ・デュオ」など、それぞれの物語につながりはないけれど、どの物語にも「ぼく」の目を通して、時には重く気にかかる家族の姿が描かれている。どのお話も想像にゆだねるかのように、気になる部分を残して終わる。



虫ぎらいは
なおるかな？
金井 真紀／文と絵
(理論社)
486・カ

虫ぎらい歴 40 年の金井さんが虫ぎらいをなおすため、七人の達人に会いに行く。達人たちは、虫だけでなく、「きらい」という気持ちを考える専門家までさまざま。ゴキブリからめずらしい虫まで、虫と人とのつきあいを色んな見方で探るうちに気づいたことは、思いがけないほどたくさん！金井さんと一緒に発見を楽しめる。達人が「なぜ今の仕事にたどりついたのか」についての物語は、どの人をとっても味わい深い。

物語部門



よろしく パンダ広告社

間部 香代／作
三木 謙次／絵
(学研プラス)
91・マ

よろしくパンダ広告社で、ランドセルのコマーシャルを作ることに！本田パンダの仕事は、ランドセルを買いたくなる言葉「キャッチコピー」を考えること。ランドセルのいいところって何だろう？言葉はみんなを元気にしたり、気持ちをつなげたりするから大事なんだ。ランドセルのほかに、プラネタリウムや新しい祝日の宣伝にも挑戦するよ。

物語部門



しずかな魔女

市川 朔久子／作
(岩崎書店)
91・イ

学校に行けず、図書館に通っていた草子は、司書の深津さんからくしずかな子は、魔女に向いてる」と書かれたお守りの紙をもらう。本の中に出てくる言葉だろうか。草子は深津さんに、この言葉が出てくる話が読みたいと相談する。2週間過ぎ、深津さんから返事が…それは本ではなく紙の束で『しずかな魔女』という題の物語だった。

ノン
フィクション
部門



生きています シーラカンスに 会いたい!

岩田 雅光／著
(新日本出版社)
487・イ

恐竜よりもずっと昔、4億年前から地球にいた「シーラカンス」。130種類以上いたが、現在確認できるのはわずか2種類！子どもを産む魚シーラカンスのなぞを解くことは、進化の研究にもつながる。「アクアマリンふくしま」水族館員の岩田さんは、生きたシーラカンスを追い続けている。173回の挑戦とハプニングから学んだこととは!?

物語部門



夏に降る雪

あんず ゆき／作
佐藤 真紀子／絵
(フレーベル館)
91・ア

六年生の春、東京から長崎県佐世保市に引っ越してきた大河。夏休みに戦争をテーマにした舞台に参加することになり、主役の一人に選ばれる。セリフもうまくしゃべれないし、戦争のことだってよく知らない。プレッシャーにおしつぶされそうになりながらも、家族の言葉に励まされ、大河は、やれるだけやってみようと決意する。

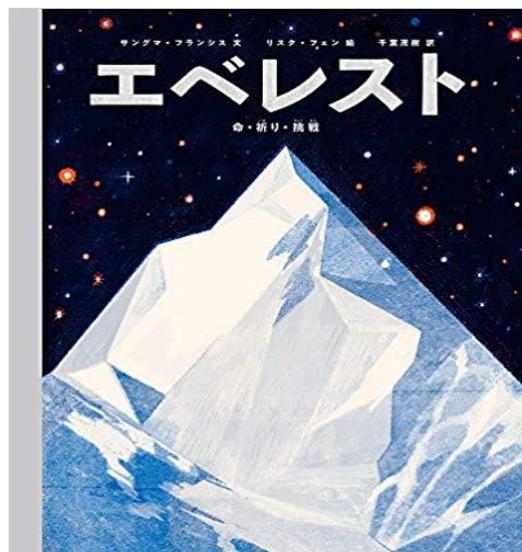
物語部門



トクベツな日

白矢 三恵／作
スカイエマ／絵
(PHP研究所)
91・シ

「悩みのない人間なんていない」と言うけれど、二葉が転校してきた5年1組には、「悩みなんて無関係」って顔している子がたくさんいる。たとえば、学級委員で「いい子ぶりっこ」の真央、人気者の達也、ガリ勉の勝。それに比べて二葉には誰にも言えない悩みがあって、毎日苦しい思いをしているのに…。



エベレスト

サングマ・フランシス／文
リスク・フェン／絵
千葉茂樹／訳
(徳間書店)
29・フ

およそ5,000万年前に誕生したヒマラヤ山脈。全長2,400kmにもあたって広がり、110を超える山々が連なっている。なかでも一番高い山は、8,848mの高さで空に向かってそびえたつ「エベレスト」。ヤクやヒマラヤナキウサギなどの動物、イエティやガンガーの伝説、エドモンド・ヒラリーや田部井淳子などの登山家たち、山頂の様子や登山ルートなど、エベレストとヒマラヤ山脈の魅力がたっぷり書かれている。簡単には行けない場所だけに、本で楽しもう！

物語部門



飛ぶための百歩

ジュゼッペ フェスタ／作
まめふく／イラスト
(岩崎書店)
97・フ

5歳で目が見えなくなったルーチョ。見えていた時の記憶と工夫で、ほとんどのことは自分でやってきた。大好きな山登りの時は、他の人と布をうでにつないで進む。でも、中学生になったルーチョは、人から手を差し伸べられることにうんざりしていた。一人で向かった山での試練、無口な少女アキラとの出会いを通して、ルーチョが見た景色とは…。

ノン
フィクション
部門



走れ!メープル

菅 聖子／文
山本 遼／写真
篠本 映／絵
(小峰書店)
64・ス

山梨県にある工房「アドワークス」には小さな車いすがならんでいる。犬の車いすだ。ものづくりが得意な忠裕之^{ちゆうよゆき}さんは、愛犬アドが病気で歩けなくなった時、自分で車いすを作った。材料は子ども用自転車のほじょ輪や水道管のパイプなど身近な物ばかり。動物だって命あるかぎり走りたはず! 忠さんの車いすは5000匹以上の犬の歩く夢をかなえた。

9月のおすすめ本

物語部門



貸出禁止の本を すくえ!

アラン・グラッツ／著
(ほるぷ出版)

93・グ

ある日、エイミー・アンが大好きな本『クローディアの秘密』を借りに行くと、学校の図書室の本だながら消えていた！教育委員の方が、有害図書として貸出を禁止したというのだ。エイミー・アンは自分のロッカーに貸出禁止になった本を集め、こっそり友達に貸し始めた。でも、それも校長先生に見つかってしまう。この大ピンチ、子ども達はどうか乗り切る？

ノン
フィクション
部門

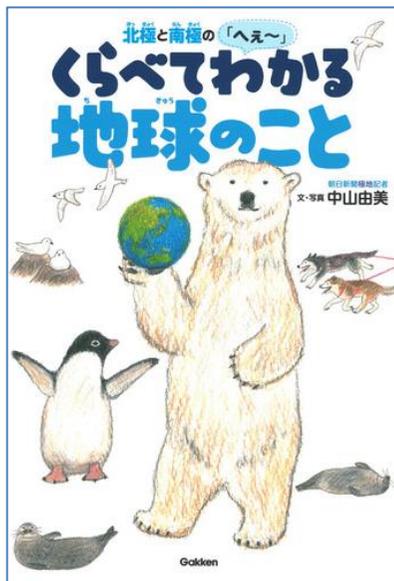


将棋の駒は なぜ歩が 金になるの？

高野 秀行／文
(少年写真新聞社)

79・タ

将棋は、実際に遊んだことはなくてもなんとなくイメージできる人が多い有名なゲーム。いつから将棋はあったの？など将棋に関する疑問にプロ棋士が答えていく。コンピュータ対決の項では「将棋の楽しみ方も人間次第」という言葉が印象的。豊富なエピソードから、歴史を越えて人々をとりこにし続ける将棋の奥深さがわかる1冊。



北極と南極の「へえ〜」 くらべてわかる 地球のこと

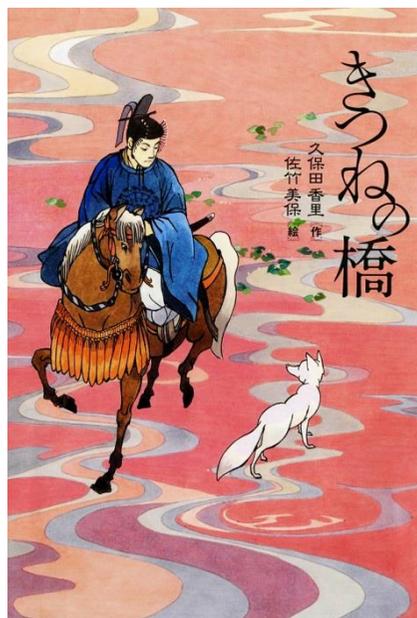
中山 由美／文 写真

(学研プラス)

402・ナ

北極と南極、どちらが寒い？動物が人間に近寄ってくるのはどちら？そもそも、どこの国のもの？調べてみると、似ているようでちがうところがいっぱい！極地のことを知ることは、今まで地球に起きてきたことを知るだけでなく、これからの地球環境を考えるきっかけにもなる。さあ、朝日新聞の中山記者と極地探検に出発！

物語部門

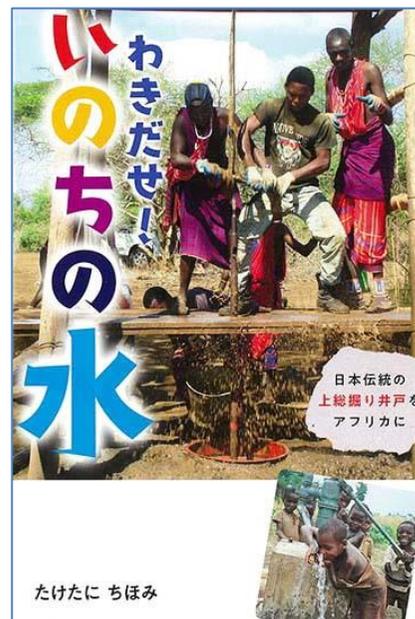


きつねの橋

久保田香里／作
佐竹美保／絵
(偕成社)
91・ク

平安時代、京の都。15歳になった平貞道は、立派な武士になるため、貴族の屋敷の従者となった。主人である源頼光に認められるような働きをしたいが、仕事といえば掃除や馬の世話ばかり。ところが妖怪の白ぎつね・葉月と出会い、次から次へと騒動に巻き込まれる。弓の名手である季武との名コンビで、尊子姫の手助け、幼い藤原道長の護衛、盗賊討伐と活躍する。

ノン
フィクション
部門



わきだせ! いのちの水

たけたに ちほみ／著
(フレール館)
51・タ

水に困っている人たちを一人でも多く救いたい。大野篤志^{かずさほ}さんは、日本伝統の上総掘りの技術を改良して、開発途上国できれいな飲み水の出る井戸を掘る活動を行っている。「井戸を提供するのではなく、現地の人びとを井戸掘り職人にする」ことを目標に、道具の作り方や掘り方も指導している。これまで約120本の井戸を掘った大野さんの活動の記録。

物語部門



あした、
また学校で

工藤 純子／著
(講談社)
91・ク

もうすぐ大縄跳び大会。一将は、弟の将人が萩野先生に「できない子は練習に来て」と怒られたことや、友達から「将人が出ると負けるから、大会に出るな。」と言われたことを知る。学校を休み始めた将人。勝つことがそんなに大事なのか？担任の橋本先生に相談しても「学校はだれのものか」って言うだけで頼りにならない。将人のためにできることは何だろう？

物語部門



夏休みに、
ぼくが図書館で
見つけたもの

濱野 京子／作
(あかね書房)
91・ハ

達輝は本が大好きで、図書館のアリスクラブに入っている。アリスクラブでは、司書のブックトークを聞いたり、メンバーで本の紹介をしたりする。ある時、同じクラスの子から小さい時に読んだ本を探していると相談を受け、達輝は張り切る。さらに夏休みには本好きじゃない子にすすめる本も探すことになるが、なかなか本が見つからない…。

物語部門



となりの アブダラくん

黒川 裕子／作
(講談社)

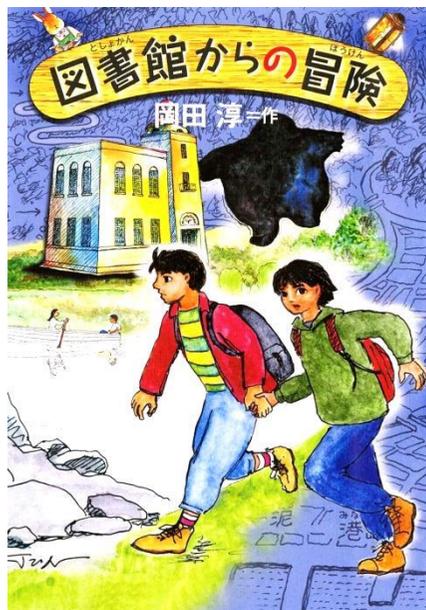
91・ク

大場晴夜、6年生、空手有段者。(趣味が編み物ってことは友達にも言えないヒミツ。)ぼくのクラスにパキスタン出身の転校生が来た。日本語が話せなくて、生活や考え方もちがう「アブダラくん」だが、一緒にいるうちにぼくはアブダラくんのことが少しわかってきた。でも気づいたら、アブダラくとぼくは教室でういた存在になっていた！もう、人と違っていてどうしてこんなに苦しいんだ!?

12月のおすすめ本

物語部門

ノン
フィクション
部門



図書館からの冒険

岡田 淳／著
(偕成社)
91・オ

渉は、大叔父の敬太郎さんから不思議な話を聞いた。昔、柴野崎小学校の図書館から、シバノザキ島という別世界へワープした話だ。今は廃校になっている小学校の図書館に、渉がしのびこむと、シバノザキ島のサキという女の子が現れた。シバノザキ島も、今は謎の泥のひとたちに占領され、荒れ果てていた。渉はサキと一緒に、島を救うために動き出す！



戦場の秘密図書館

マイク トムソン／作
小国 綾子／編訳
(文溪堂)
01・ト

シリアでは戦争が続き、ダラヤの町はがれきの山だった。それでも命がけで本を集め、地下室に秘密図書館を作った若者たちがいた。家族と離れ、空腹でつらい時でも本を探すなんて、と思うかもしれない。ダラヤに残った若者は「体が食べ物を必要とするように、魂には本が必要」と言う。戦場で最後まで人々の希望の場所だった図書館の活動を知ってほしい。